

かつてこの国には、現代美術があった。

ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校 第3期



カオス*ラウンジ「鬼の家」より、梅沢和木のインスタレーション

2017年4月、「ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校」第3期を開講いたします。

新芸術校は、思想家・東浩紀が運営する株式会社ゲンロンが、2015年に立ち上げたアートスクールです。美術批評家の黒瀬陽平さんを主任講師に、会田誠さん、榎木野衣さん、岡田利規さん、宮台真司さんら、多彩なゲスト講師をお迎えして、美大とは異なる形で美術家を育成してきました。第1期の最終講評会で優秀賞を受けた弓指寛治は、2016年、ワタリウム美術館地下のギャラリー、オン・サンデーズで個展デビューを果たし、また『美術手帖』2016年12月号の特集「あなたの知らないニューカマーアーティスト100」で取り上げられています。ほかにも、新芸術校生は、東京・住吉の民家を舞台に「ブラックアウト」展（2016年）を開催するなど、活躍の場を広げています。

2017年度の新芸術校は「展示」を中心に据えたプログラムになります。本プログラムでは、基本となる「展示指導」を軸に、前期は展示の作り方を学ぶ座学の「理論」、後期は実践となる「展覧会」「講評」を組み合わせ、授業スケジュールが組まれています。また、「ツアー」の授業で、実際に美術館やギャラリーに足を運び、現代美術の現場を見学します。

「理論」の授業では、美術理論や美術史を踏まえ、文脈ある論理的な展示の作り方とキュレーションの方法を学びます。ゲスト講師として、美術館の現場から、蔵屋美香さん（国立近代美術館）と新藤淳さん（国立西洋美術館）をお招きします。「展示指導」では、展示を見据えて丁寧な制作指導を行うとともに、「理論」で学んだことを応用しつつ、実際の展示企画を指導していきます。

後期の授業は「展覧会」が中心となります。10月から1月にかけて、五反田アトリエにて合計4回のグループ展を開催します。受講生は10月（3名）、11月（5名）、12月（7名）、1月（10名）の4グループに分かれ、作品を展示します（カッコ内は想定される展示参加人数）。準備期間の短いグループは、展示する人数が少なく設定されており、一人ひとりがより多くのスペースを使って自由な展示をすることができます。月を重ねるごとに展示参加人数が増え、準備が十分にできる一方で、個々の参加者が使うことのできるスペースは少なくなります。

「展覧会」では、受講生は作品を展示するだけでなく、黒瀬主任講師のサポートのもと、キュレーションも自分たちで行います。展示は一般公開され、各展覧会の終盤に、飴屋法水さん、宇川直宏さん、堀浩哉さんらをゲスト講師に、クローズドの講評会を行います。講評会の際には、当該の展示に参加していない受講生も指導を受けることができます。

4つの展覧会を通してもっとも力を発揮した5名の受講生は、2018年3月に開催される最終選抜展に参加する権利が得られます。キュレーターには、これまでの展覧会のキュレーションでもっとも力を発揮した受講生1名あるいは数名が受講生から選拔され、黒瀬主任講師のサポートのもと展示を構成します。最終選抜展は一般に公開されます。また、美術界を代表する第一線の審査員を迎えて最終講評会を行い、最優秀賞および審査員賞を選出します。

美術教育のシステムの外にある、ゲンロンならではの実践的なスクールとして、「現代美術とともに生き残る」ことのできるアーティストの育成を目指します。

実施期間： 2017年4月1日～2018年3月31日

会場： 五反田アトリエ 141-0022 東京都品川区東五反田 3-17-4 糟谷ビル 2F

講師： 主任講師 黒瀬陽平

ゲスト講師 飴屋法水、宇川直宏、蔵屋美香、新藤淳、堀浩哉、宮台真司

最終講評会審査員 岩渕貞哉、和多利浩一、東浩紀

定員： 25名

募集期間： 2016年12月17日～2017年2月28日

※ 先着順での受付となります。定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。

※ 応募人数が規定数に満たない場合は開講されないこともございます。

受講料： 218,000円（税別）展覧会出展料含む

※ ゲンロン友の会第7期会員および、応募時点でゲンロンスクール（新芸術校標準コース・上級コース／批評再生塾／SF創作講座）を受講中の方には、割引が適用されます。割引金額は5,000円です。割引の併用はできません。

お申込み： 下記 URL よりお申し込みください。

<http://school.genron.co.jp/gcls>

お問い合わせ： 株式会社ゲンロン info@genron.co.jp 03-6417-9230

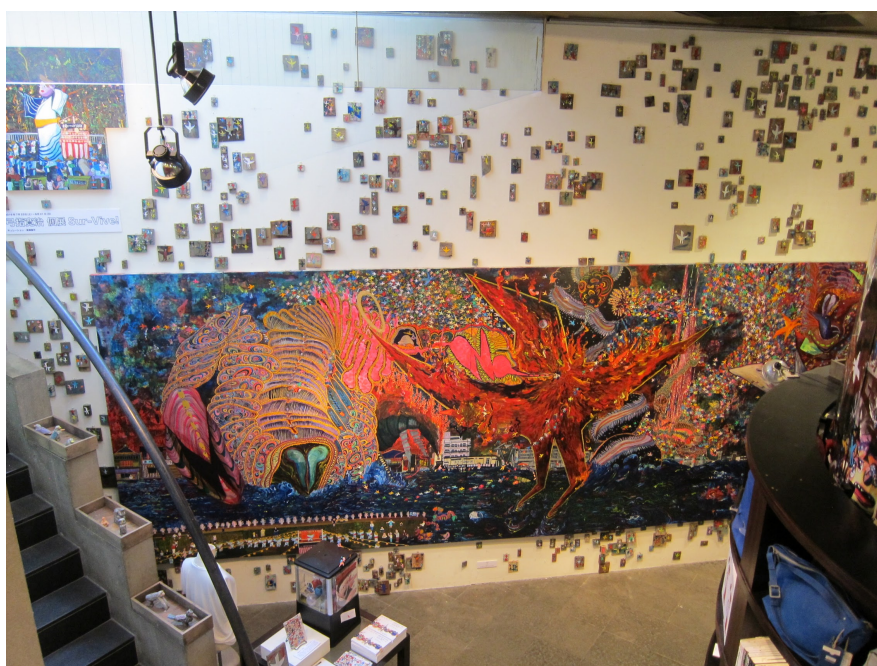
担当 上田

公式サイト： <http://school.genron.co.jp/gcls>

公式フェイスブック： <https://www.facebook.com/genrongcls>

主催： 株式会社ゲンロン

- ・ 第1期（2015年度）の活動に関しては、カオス*ラウンジの今井新さん監督・撮影による10本のショートドキュメンタリー「ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校密着ドキュメント」を制作しております。動画は公式サイト第1期新芸術校ホームページからご覧いただけます。
<http://school.genron.co.jp/gcls/gcls-2015>
- ・ 標準コース第2期および上級コース第1期（ともに2016年度）の活動に関しては、公式フェイスブックでのフォトレポートをご覧ください。 <https://www.facebook.com/genrongcls>
- ・ 2017年2月5日（日）～6日（月）、ゲンロンカフェおよび五反田アトリエにてゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校標準コース第2期成果展「^{ハプニング}直接行動を待ちながら」を開催いたします。また、2月25日（土）～26日（日）には、五反田アトリエにて上級コース成果展「まつりのあとで」を開催予定です。新芸術校の活動をみなさまにご覧いただく機会となりますので、どうぞご来場ください。詳細は追って弊社公式ツイッター @genroninfo、新芸術校公式フェイスブック <https://www.facebook.com/genrongcls> などで告知いたします。



弓指寛治個展「Sur-Vive !」 2016年7月-8月 オン・サンデーズ

生き残れ、現代美術とともに。

黒瀬陽平

現代美術はその歴史のなかで、何度かの「ターン Turn」を経験してきた。この数年で加速度的に深刻化した「ポリティカル・ターン」は、もはや逃れられない現実となりつつある。

国内に限って言えば、それはおそらく震災以後、着々と進行していた。出口の見えない閉塞感が社会に蔓延するなかで、人々は自ら、過度に神経症的な相互監視社会を作り上げた。そして自らあらゆる「表現」に対する無制限の「検閲」に耽っては、「炎上」という祭りを繰り返す。

90年代に流行した「PCアート」が、政治的正しさ(PC)を以て作品価値を担保しようとしていたのとは違って、「ポリティカル・ターン」以後の現代美術は、どのような内容であろうと、自動的に社会的、政治的メッセージに変換されることになる。そして、問答無用でポリティカル・コレクトネス・チェックを受けることになるのだ。

「ポリティカル・ターン」以後の表現は、まったく無害で、おそろしく退屈なものになることを宿命づけられている。しかし言うまでもなく、そのような表現は、現代美術の名に値しない。

だから現代美術は、現代の、後戻りのできない「ポリティカル・ターン」に抗して、自らのテリトリーを確保しなければならない。この冗談のような、そして悪夢のような現代から生き残るための術こそ、新芸術校という実験の場で探求されるべきものだ。

したがって、新芸術校の第3期は、より現実的で実践的、そしてシビアな競争をとまなうカリキュラムにバージョンアップすることになった。

1年間のうち最初の半年は、主に講義とワークショップによって、知識とノウハウのインストールを集中的に行う。そして残りの半年で、実際に作品を制作・発表し、受講生どうしで「生き残り」をかけた競争が行われる。最終的に、成果展に出品できる受講生は、その競争で生き残った数名に絞られる。

もしかしたら、ここまで苛烈な競争原理を持ち込んだ第3期の新芸術校は、もはや「美術教育」ではないのかもしれない。しかし、既存の美術教育が、この現代から生き残る術を教えることができないのなら、私たちは変わらなければならない。

生き残れ、現代美術とともに。